

《担当者名》准教授/町田 拓自
教授/大橋 敦子

【概要】

様々な疾患の病態生理学的背景や臨床経過を理解することは、薬物治療を実践するにあたって極めて重要である。薬物療法学IIIでは、血液・感覚器の疾患について、その病因・病態を理解し、関連する薬物の薬理作用や薬物治療の理論的背景と合理的な医薬品の使用方法を習得する。

【学修目標】

日常遭遇する頻度の高い主な感覚器・血液の疾患・病態について列挙し、その病因・病態を理解し、薬物治療を行うにあたって必要な理論的根拠を説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	造血系疾患 教科書：コンパス p199～208 資料を配布する。	各種貧血（鉄欠乏性、再生不良性、溶血性、巨赤芽球性）の病態を、簡潔に説明できる。 白血球減少症の病態を簡潔に説明できる。 関連するモデル・コアカリキュラムの到達目標 E2-(3)- -3～5	町田 拓自
2	造血系作用薬 教科書：パートナー p394～404 資料を配布する。	貧血治療薬を分類し、その代表的薬物の作用機序、適応、副作用を説明できる。 白血球減少症に用いられる治療薬を挙げ、その作用機序を説明できる。 血小板減少症に用いられる治療薬を挙げ、その作用機序を説明できる。 関連するモデル・コアカリキュラムの到達目標 E2-(3)- -3～5	町田 拓自
3	血液凝固系疾患 出血性疾患 教科書：コンパス p209～225 資料を配布する。	止血機構の四要素と止血血栓形成におけるそれらの役割を説明できる。 代表的な血栓・塞栓症の成り立ちを簡潔に説明できる。 血友病、血小板減少性紫斑病、播種性血管内凝固症候群(DIC)など代表的な出血性疾患の成り立ちと病態を簡潔に説明できる。 関連するモデル・コアカリキュラムの到達目標 E2-(3)- -1～5	町田 拓自
4	抗血小板薬 教科書：パートナー p386～392 資料を配布する。	抗血小板薬を分類し、その代表的薬物の作用機序、適応、副作用を説明できる。 関連するモデル・コアカリキュラムの到達目標 E2-(3)- -1,2	町田 拓自
5	血液系作用薬 1 教科書：パートナー p378～386 資料を配布する。	抗凝固薬を分類し、その代表的薬物の作用機序、適応、副作用を説明できる。 関連するモデル・コアカリキュラムの到達目標 E2-(3)- -2,3, E2-(3)- -1	町田 拓自
6	血液系作用薬 2 教科書：パートナー p371～378 資料を配布する。	血栓溶解薬を分類し、その代表的薬物の作用機序、適応、副作用を説明できる。 止血薬を分類し、その代表的薬物の作用機序、適応、副作用を説明できる。 関連するモデル・コアカリキュラムの到達目標 E2-(3)- -1,2	町田 拓自

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
7	白血球疾患の病態 教科書：コンパス p225～243 資料を配布する。	白血球疾患の病態について説明できる。 関連するモデル・コアカリキュラムの到達目標 E2-(3)- -5, E2-(7)- -5, 6	町田 拓自
8	耳鼻咽喉疾患の薬、病態、治療 眼疾患の薬、病態、治療 資料を配布する。	緑内障について、治療薬の薬理、病態、薬物治療を説明できる。 白内障について、治療薬の薬理、病態、薬物治療を説明できる。 加齢性黄斑変性について、治療薬の薬理、病態、薬物治療を説明できる。 結膜炎、網膜炎、ぶどう膜炎、網膜色素変性症について概説できる。 めまいについて、治療薬の薬理、病態、薬物治療を説明できる。 アレルギー性鼻炎、花粉症、副鼻腔炎、中耳炎、口内炎、咽頭炎、扁桃腺炎、喉頭蓋炎について概説できる。 関連するモデル・コアカリキュラムの到達目標 E2-(6)- -1～4, -1,2, -1	大橋 敦子

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

知識領域の期末定期試験（100％）で合否の判定を行う。定期試験終了後、試験問題の解説を行う。

【教科書】

「パートナー薬理学 改定第4版」 石井邦雄、田中芳男、坂本謙司 編 南江堂

「コンパス薬物治療学 改定第2版」 原明義、小山進 編 南江堂

【参考書】

薬物治療学 南山堂

クイックマスター病理学 サイオ出版

病が見える vol.5 血液 MEDIC MEDIA

薬が見える vol.2 代謝系の疾患と薬 内分泌系の疾患と薬、産婦人科系の疾患と薬、血液系の疾患と薬、免疫・炎症・アレルギー疾患と薬、眼・耳・皮膚の疾患と薬 MEDIC MEDIA

【学修の準備】

予習としては、次回の授業範囲の教科書を読んで、理解しておくこと（80分）。

復習は、教科書、プリント、講義メモを活用し、学修を深めること（80分）。

【関連するモデル・コアカリキュラムの到達目標】

E 医療薬学

E2 薬理・病態・薬物治療

(3) 循環器系・血液系・造血器系・泌尿器系・生殖器系の疾患と薬

【血液・造血器系疾患の薬、病態、治療】1～5

【化学構造と薬効】1

(7) 病原微生物（感染症）・悪性新生物（がん）と薬

【悪性腫瘍の薬、病態、治療】5, 6

(6) 感覚器・皮膚の疾患と薬

【眼疾患の薬、病態、治療】1～4

【耳鼻咽喉疾患の薬、病態、治療】1,2

【化学構造と薬効】1

【薬学部ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

2. 有効で安全な薬物療法の実践、ならびに人々の健康な生活に寄与するために必要な、基礎から応用までの薬学的知識を修得している。

3. 多職種が連携する医療チームに積極的に参画し、地域的および国際的視野を持つ薬剤師としてふさわしい情報収集・評価・提供能力を有する。

【実務経験】

町田拓自（薬剤師）、大橋敦子（獣医師）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での薬剤師として、また動物医療機関での獣医師としての実務経験に基づいて、臨床に即した薬物療法学の講義を行う。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している